

History

黒部の水害の歴史

古来より暴れ川として名高かった黒部川は、洪水に見舞われるたびに河川が氾濫し、流れが迷走して川筋が分かれ、「黒部四十八カ瀬」と呼ばれるほどでした。その黒部川を、江戸時代以来今日まで、気の遠くなるような年月と人々の努力により治水事業が継続されてきました。そして、川との闘いは、今も続いているのです。

新聞に見る過去の災害状況

昭和9年



昭和9年7月12日、黒部川は大正3年以来の大洪水となり、堤防決壊15,009m、道路の決壊15,709m、死者7人、食傷者133人という大災害となりました。新聞（富山日報）はこの時の水害を「凄惨・目を覆わす水地獄」「県下27町村泥海」「黒部川堤防欠壊」「黒部濁流大暴れ」「黒部川の大氾濫により村橋村、生地町（現黒部市）など全村水浸しとなり、浸水は床上8尺に達し、ツブラに入ったままの赤ん坊などが夜明けの濁流に流された」と報じています。

昭和27年



昭和27年7月1日、黒部川では昭和9年の出水を上回る大洪水が発生して、若栗、浦山、上浦山、下立堤が破堤しました。新聞（北日本新聞）は「18年ぶりの大洪水」「黒部川堤防決壊の恐れ」「権蔵橋（当時県下一長い橋）30メートル流出」「神通大橋（神通川）も20メートル流出」「田畑被害2万4千町」「被害総額20億円」「黒部西瓜に大打撃」「水魔狂う新川平野、濁流美田を一呑み」「豊上げる間もなし」と報じています。

昭和44年



昭和44年8月11日、台風通過後の集中豪雨により、南島で破堤400m、福島で同180m、祖母谷運搬道路各所で決壊、愛本橋が流出など黒部川流域全般に破堤、護岸などの決壊・流出が相次ぎ、宇奈月町で家屋全壊流出7戸、浸水総面積36.6ヘクタール。入善町、黒部市でも合わせて1,012ヘクタールが浸水するという大災害となりました。この時の惨状を新聞（北日本新聞）は上空から現地を取材した記者が「最もひどい決壊をした入善町では、復旧作業の人たちがぼう然と立ちすくみ、濁流を見つめているだけ。水田は完全に冠水して稲穂の姿はない。愛本橋付近はまだ濁流が渦巻いている。愛本橋はどこへいってしまっただろうか。黒部の上流で、いったいどれだけの雨が降ったのだろうか」とレポートしています。

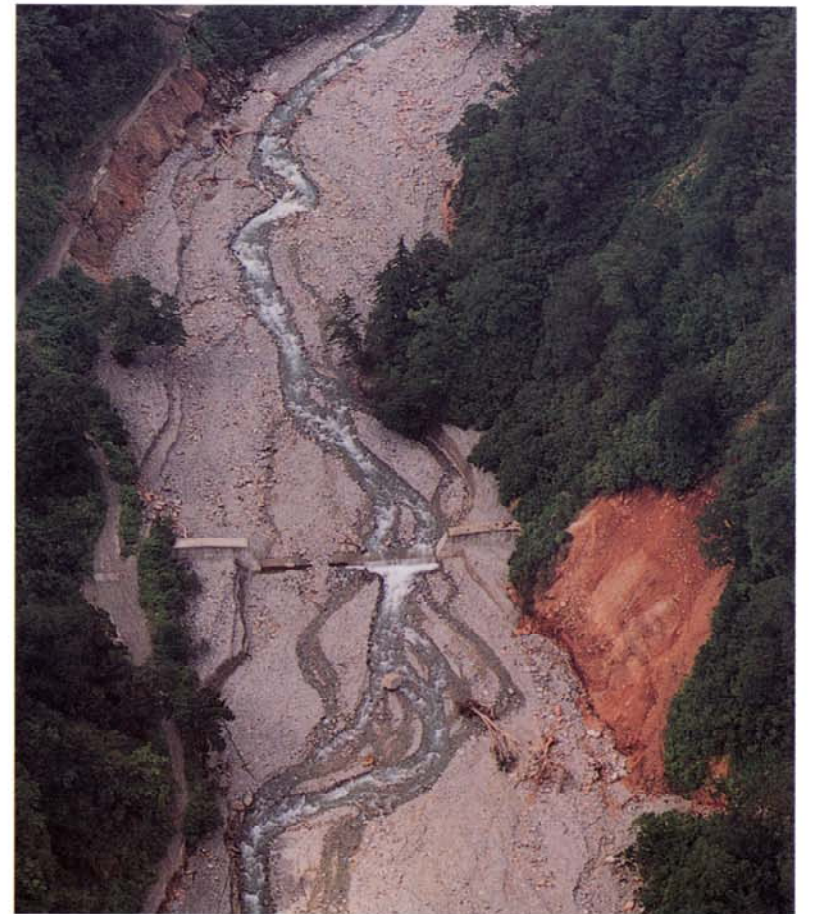
平成7年



平成7年7月11日から富山県東部山岳地帯から新潟県上越地方、長野県北信地方の山岳地帯に降った豪雨によって、新潟、長野両県では死者・行方不明者、家屋の全半壊、浸水、道路や鉄道の途絶、田畑の流出などの大きな被害が発生し、その多くは現在もお復旧の目処がたっていません。しかし富山県では床上浸水1棟、床下浸水108棟の被害があっただけで、深刻な被害は発生しませんでした。新聞（北日本新聞）の紙面では「関電合宿所が浸水、県警へリに救助要請」「黒部峡谷鉄道数か所で寸断」「豪雨で宇奈月温泉予約取り消し相次ぐ」と、宇奈月温泉から上流域での被害や救助に話題が集中しました。

長年にわたる治水事業の賜物。
中流・下流の被害は最小限に。

災害を最小限に食い止めた施設



●祖母谷第5号砂防ダム



●濁流をおさえる水制

黒部川水害年表

明治26年（1896年）	オランダ人土木技師デ・レーケの設計により、黒部川に霞堤が完成
明治45年（1912年）	黒部川で大洪水、田畑1300町歩が流出
大正3年（1914年）	黒部川で洪水が3回あり、大きな被害を受ける
昭和7年（1932年）	不帰谷で大土石流発生。30万立方mが流出。旧愛本堰堤が完成
昭和9年（1934年）	大洪水で若栗、大布施、新屋、下立堤が破堤。堤防決壊1万5009m、道路決壊1万5709m
昭和12年（1937年）	森石谷で土石流発生。堤防決壊540m、道路決壊460m、田の被害100アール
昭和19年（1944年）	黒部川の洪水で福島、上荻生堤が破堤。不帰谷で大土石流が発生し、本川との合流地点付近にあった錦織温泉は埋没・流出する
昭和20年（1945年）	不帰谷で10万立方m、小黒部谷で20万立方mの土石流が発生し、堤防決壊2500m、道路決壊80m、田の被害1万3165アール
昭和21年（1946年）	黒部川の洪水で若栗堤が破堤
昭和22年（1947年）	黒部川の洪水で上荻生堤が破堤。不帰谷で20万立方m、小黒部谷で20万立方mの土石流発生。堤防決壊1250m、道路決壊70m、田の被害1万1140アール

昭和27年（1952年）	黒部川で大洪水発生。若栗、浦山、上浦山、下立堤が破堤
昭和28年（1953年）	不帰谷で15万立方m、祖母谷で8万立方mの土石流発生
昭和36年（1961年）	黒部川砂防工事が建設省の直轄事業となる
昭和44年（1969年）	黒部川洪水史上最大級の洪水が発生
昭和51年（1976年）	黒部川上流のゼンマイ谷で地滑り性の崩壊発生。4万立方mの土砂流出
昭和53年（1978年）	豪雨により、黒部川第1号砂防ダム右岸下流の擁壁護岸が基礎洗掘を受ける
昭和54年（1979年）	祖母谷右岸山腹が崩壊し、2万立方mの土砂流出
昭和55年（1980年）	祖母谷硫黄沢で地滑り性の崩壊発生。160万立方mの土砂流出
昭和56年（1981年）	不帰谷で山崩れ発生。6万立方mの土石流が黒部川を埋める
平成7年（1995年）	集中豪雨により大規模な地滑り性の崩壊が発生し、黒部峡谷鉄道が寸断されるなどの被害が発生

暴れ川黒部の歴史はまさに洪水の歴史。
人々は幾多の苦難を乗り越えて、生活を守り続けてきた。